令和７年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校

1　学校として目指す授業

深い学びにつながるように、既習事項の振り返りや主体的・対話的な取組を入れた、生徒がその授業でのゴールの見通しを持てる授業。

2　生徒の現状

（1）「全国学力・学習状況調査」の分析（３年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語では、都の平均正答率より知識・技能では６ポイント以上、思考・判断では３ポイント以上下回った。数学でも、都の平均正答率より知識・技能では５ポイント以上、思考・判断では６ポイント以上下回った。特に「数と式」「図形」領域の正答率が低かった。理科は都の平均正答率より上回った。	生活習慣では、都や全国の平均よりも朝食を食べている率が低く、夜寝る時間と朝起きる時間が不規則な生徒が多い。また、学校の授業以外の勉強時間が都や全国よりも少なく、自分で学び方を考え、工夫することができていると答える生徒の率も低い。将来の夢や目標を持っていると答えた生徒のポイントも低かった。

（2）清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（１～３年生）

学習する理由については「将来の仕事や生活に役立つ」の項目が他よりも高く、現在の学習が自分の将来と結びついている生徒が多い。国語の学習では、漢字の部首の意味を考えながら覚えたり、似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えたりすることに対しての意識が全体的に低い。また、数学の学習では、問題文の内容を図や表にして考えようとする意識が全体的に低く、文章問題を解く際に学んだ知識・技能を生かして取り組もうとする意識が全体的に弱い傾向がみられる。

（3）清瀬市「学力調査」の分析（２年生）

国語では市の平均を総合点で3.2ポイント下回っていた。観点別でみると、知識・技能は-4.0、思考・判断・表現は-2.5となっており、知識・技能の定着に課題がある。数学では市の平均を総合点で4.1ポイント下回っていた。観点別でみると、知識・技能は-4.3、思考・判断・表現は-3.2となっており、国語と同様に知識・技能の定着に課題がある。領域では、「関数」「データ活用」がとりわけ市の平均と比べ低かった。なお、国語でも数学でも分布グラフを見ると、成績下位に相当するD層が多く、３割を占めている。

（3）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
令和6年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果によると、学校平均が全国平均を下回った種目は握力、上体起こし、反復横跳びの３種目である。特に反復横跳びは全国との差が大きく、敏捷性の課題が依然として残っていることがわかる。一方で立ち幅跳びや持久走は全国平均を上回っており、下肢のパワーや持久力には強みが見られる。学年別にみると、２年生男子では複数の種目で平均を下回る一方、女子は全国平均に近い結果を示している。意識調査では「保健体育の授業は楽しい」と答えた割合が全国や都と比べて高く、学習への肯定感は育っているが、「今後も運動を続けたい」とする割合はやや低く、継続的な運動習慣の定着に向けた工夫が必要である。

3　生徒の学力・学習状況等の課題

・課題解決に必要な知識・技能の定着に課題があり、自分で学習内容を深めながら確実な定着を図る意識の向上をさせる必要がある。
・課題を自ら発見したり、課題解決に向けた方策を自分で考えたりすることが苦手な生徒が多く、課題解決の方法を身に付けさせる必要がある。
・自信のなさから、積極的に発言したり、発表したりすることを避ける生徒が多く、自己肯定感を高める必要がある。
・全国学力学習状況調査の結果より、全体として家庭学習の基礎や習慣化など家庭との教育の連携も課題である。

4　学校全体の授業改善の視点

既習事項を振り返り、基礎基本の定着を図る指導の工夫

【授業改善推進プランの活用法】

①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　生徒の現状」に，まとめる。
③「２　生徒の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　生徒の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に，「５　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。
　評価　◎…実施した。　○…一部実施した。　△…未実施

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	目標を分かりやすく提示し、１時間の到達点を意識させる。 目的に合わせてICTを活用する。		紙面での資料に加え、映像資料を用いてイメージを膨らませ授業への意欲を持たせる		計算力の定着・向上を目指して、毎時間計算練習の時間を設定する。本時のねらいを提示し授業の流れを捉えやすくする。		基礎的な知識・技術の確実な定着を図るために、内容のまとまりや単元毎に確認問題の演習を行う。		歌い方や演奏方法のコツを具体的に説明する。音楽用語は言葉をかみ砕いて説明し基礎力を身に付ける、		スモールステップでの授業展開をし、基礎・基本が身につくようにする。		授業ごとにねらいを示し、身につけさせたい力をわかりやすく提示する。また、ICTを活用して基礎基本の技能の定着を図る。		【技術】 基礎・基本の定着を図れるようにICTの活用、ワークシートを工夫する。 【家庭】 生徒の実生活に即した内容を多く取り入れ、授業への意欲を高めさせる。		基礎基本の定着を第一に４技能をバランス良く身につけられるよう授業を組み立てていく。特に、英語の発信力を高めるためのShort Skitの帯活動を続けていく。英語学習初期の段階なので、「好きこそものの上手なれ」となるよう興味関心を引く展開を意識し、自ら勉強したいと思わせるような学習内容を意識していく。		話し合い活動を充実させ、多様な考えや価値観に触れ、学び合うことで視野の広さを養う。	
2学年	意見交流の活動を単元ごとに設定し，自らの意見を持ち、それを表出する機会を多く確保する		資料を読み取る力をつけるため、グラフや図を多く用いてグループで意見交換しながら自身の考えを言葉にする		掲示物やタイマーを用いて１つの作業の終わりをはっきり伝える。クラス内外でのグループ学習の時間を設ける。		定期的な小テスト等を実施し、生徒の達成度を把握し、導入時の復習で定着を図る。		授業規律を保ちつつペアワークを取り入れ基礎力を高めていく		作業時間に集中力が続かない生徒が多いため、情報共有の時間をこまめにとり、意識の切り替えのタイミングを作る。		スモールステップで基礎基本を定着させる。それぞれに課題設定をさせて、同じ課題をもつグループで解決策を考えさせて思考力向上を目指す。		【技術】 作業時の授業規律を保つ。興味・関心が高められるようICTを活用する。 【家庭】 グループワークを多く取り入れ、活発に学習に取り組む機会を設ける。		基礎基本に関してはかなり定着が進んだ。今後は４つのスキルがまんべんなく力がつくようリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングのアクティビティをバランス良く提供する。		教科書の内容の他に、教員のオリジナル題材や生徒の実態に応じた題材を行うことで、生徒の実体験と授業内容が結びつくようにする。	
3学年	授業時間内で基礎的な知識問題の復習をする。また、定期考査では知識を活用する問題を作成する。		授業時間内に意見交換をする時間を数多く設ける。基礎基本の復習を帯時間で行う。		知識・技能の定着を目指し、毎時間計算練習や既習内容の確認を行う。本時のねらいを提示し授業の流れを捉えやすくする。		第１・２学年の既習事項の復習や問題演習を授業内に取り入れる。		3年間の総括として表現力を高めるために個人や各パートの課題を考えさせる時間を設ける		道具や素材の知識を生かすことができるようにするために、毎授業で振り返りの時間を設ける。		ICTの活用や授業ごとに振り返りの時間を設けることで、基礎基本の定着を目指す。		【技術】 知識・技能の基礎、基本の定着を図れるよう、ICTを活用するなど工夫する。 【家庭】 課題解決型の授業を意識し、グループワークを多く取り入れる。		文法の力はついてきているが、英単語や長文読解には課題が残るので、日々の家庭学習により力を入れていく。 リスニング・短文読解は少しずつできているので、スピーキング、ライティングの力をこれから伸ばしていく。		授業の中で、話し合い活動等を通して、合意形成を図る場面を多く設けることで、よりよい人間関係を築くことができるようにする。	